

ニンニク収穫 パワー発揮 八学大ラグビー部が手伝う

新郷



八戸学院大学男子ラグビー部の学生21人がこのほど、新郷村の青森農産の農場で、地域貢献活動としてニンニクの収穫作業を手伝った。収穫作業は力仕事も多く、パワーあふれる若者たちは感謝されていた。

同大ラグビー部の工藤祐太郎監督と青森農産の藤田寛明社長が八戸西高校ラグビー部のOB同士であることから、作業協力が初めて実現した。

学生たちは同村出身の崩友太コーチとともに、同村戸来のニンニク畑70㍎を訪問して、畝に生えた雑草を

集めたニンニクの茎を切っていく学生たち

手で抜き取る作業を始めた。元気な若者にとっても炎天下の除草は重労働で、森陽太さん（4年）は「ラグビー部で厳しいトレーニングをしているも、この作業はきつい。農家の苦労を実感した」と話した。

続いて、収穫機が掘り出したニンニクを集めて土を落とし、茎を切った後、ニンニクを詰めた重いケースを運ぶ作業を行った。木立焯さん（2年）は「作業は大変だが、収穫したニンニクが多くの人々の食卓に上るのはうれしい」と語った。

青森農産の坂根克也専務は「パワーが必要な仕事を、楽しみながらやってくれて本当に助かる」と学生たちの協力を喜んでいった。

（藤島玄）